

テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.17, No. 1

2019 年度に向けた取り組み

テラヘルツテクノロジーフォーラム 会長 谷正彦

昨年 9 月 9 日から 14 日にかけて名古屋国際会議場で開催されました第 43 回赤外ミリ波およびテラヘルツ波国際会議 (2018 43rd International Conference on Infrared, Millimeter and Terahertz Waves, 略称 IRMMW-THz 2018) は参加者が 824 人と過去最多参加者で、発表件数も 727 件を数え、大変盛況のうちに終了しました。これもひとえに会員の皆様やコミュニティーの支援の賜物と感謝申し上げます (その詳細につきましては次ページ以降の報告をご参照ください)。

さて、今年度のフォーラムの活動において重点的に取り組みを行いたいと考えていることを簡単に述べさせていただきます。

まずその第 1 は、会員の皆様に対するサービス向上のため、環境の変化と先を見据えた戦略と企画力を重視し、企画からイベントなどの実施を戦略的かつ連続的に実施するための組織改革を行いたいと考えております。そのための今年度はワーキンググループを組織し、組織改革の青写真を固めたいと思います。

第 2 は、寄付金やフォーラムの活動において得た利益を原資として、テラヘルツ技術の産業化のための研究開発、情報交流、産学連携、人材育成などを支援する基金を設立することです。今年度はそのための準備委員会を組織し、できるだけ早期に基金を設立し、コミュニティーの皆様の活動のための支援に役立てたいと考えています。

これらの取り組みについては、ぜひ会員の皆様のご意見を広く取り入れたいと思いますので、引き続き、ご支援、ご協力のほどお願い致します。

日本におけるテラヘルツ波科学の草分けである西澤潤一先生が 2018 年 10 月 21 日にお亡くなりになりました。西澤先生は格子振動を利用したテラヘルツ波光源の先駆的なお仕事を始め、テラヘルツ波科学において大変大きな足跡を残されました。またさまざまな活動を通じてこの分野の発展に尽力されました。当フォーラムが学術振興会第 182 委員会と主催した The Second International Symposium on Frontiers in THz Technology (FTT 2015) では名誉委員長を務めていただいたこともあります。末筆になりましたが、西澤先生のご業績に敬意を表するとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。